

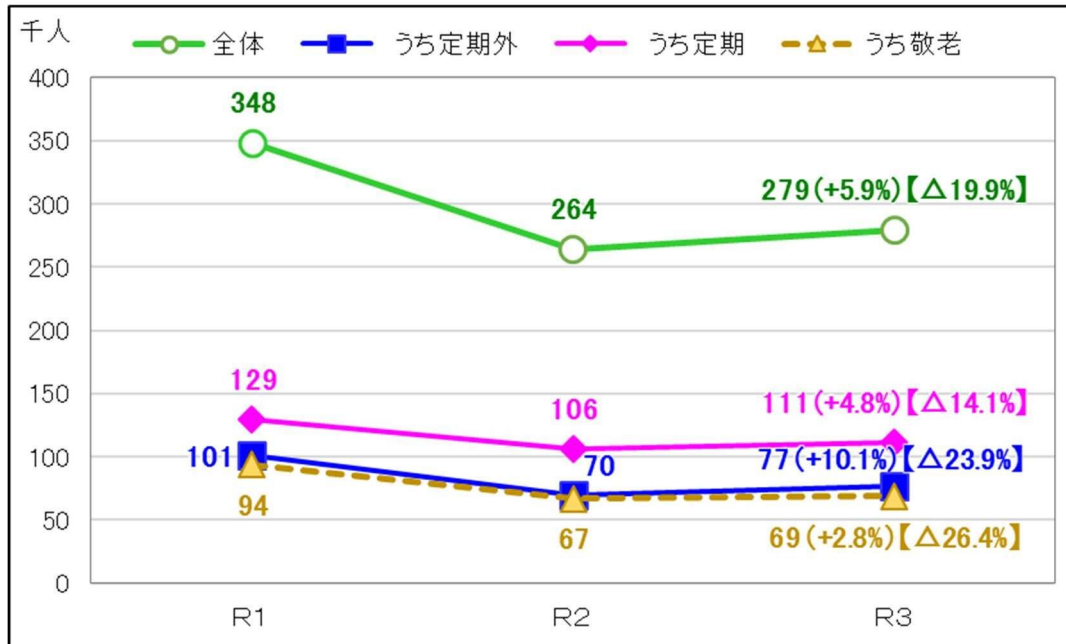
経営の状況

1 乗車人員の状況

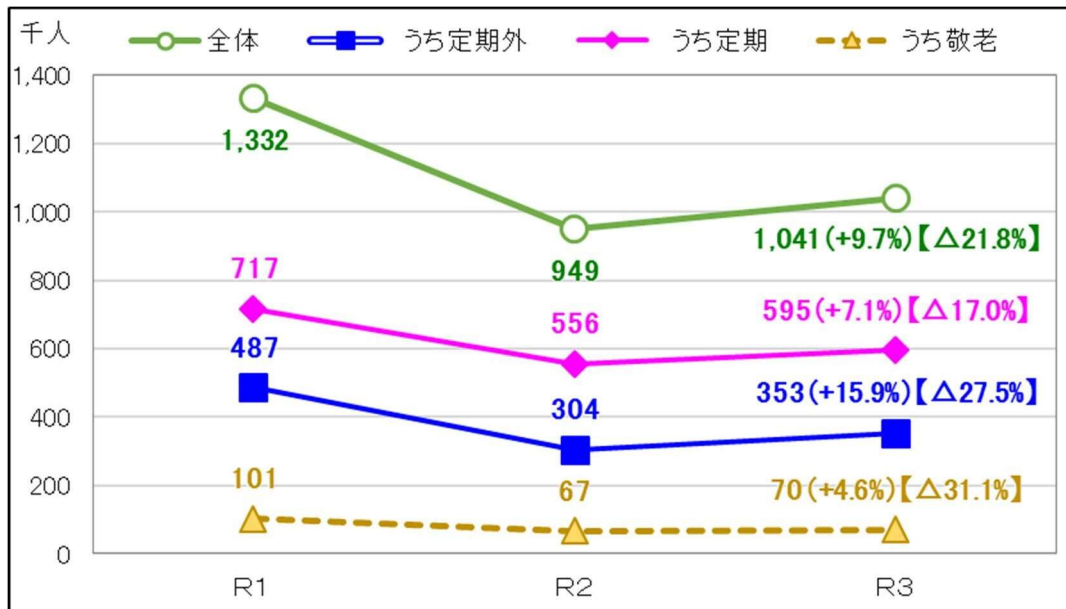
(1) 一日当たり券種別乗車人員の年度推移

(())は対令和2年度比、【 】は対令和元年度比)

市バス

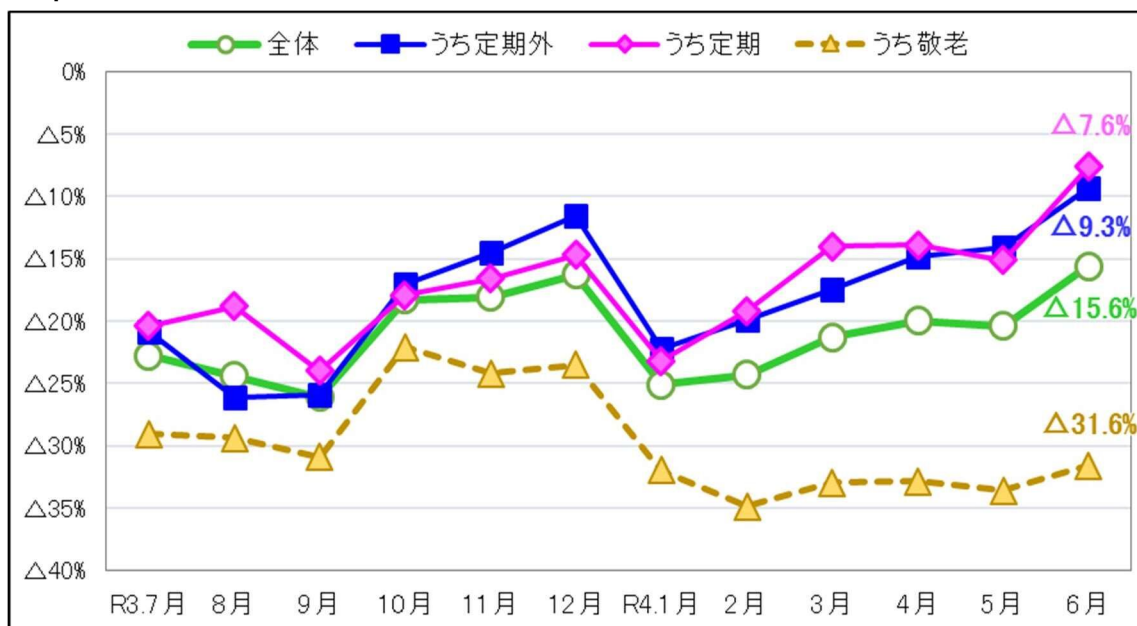


地下鉄



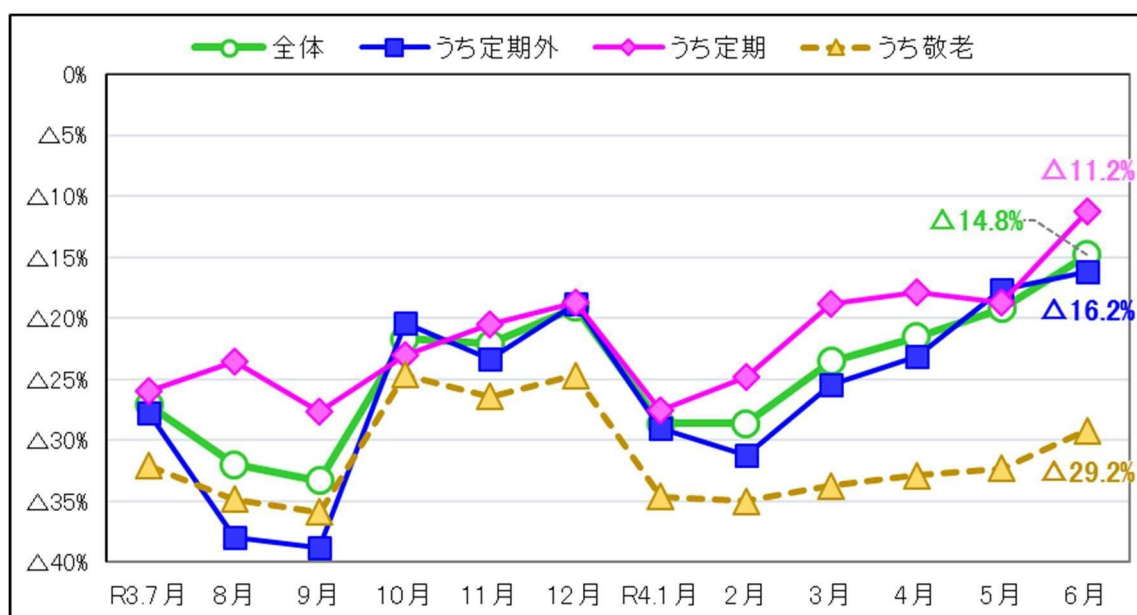
○令和3年度の乗車人員は、対令和2年度比では市バス+5.9%、地下鉄+9.7%と増加したものの、コロナ前の令和元年度比では市バス△19.9%、地下鉄△21.8%と大きく下回っている。

（２）一日当たり券種別利用人員の対コロナ前同月比月別推移 市バス



※料金箱データ

地下鉄



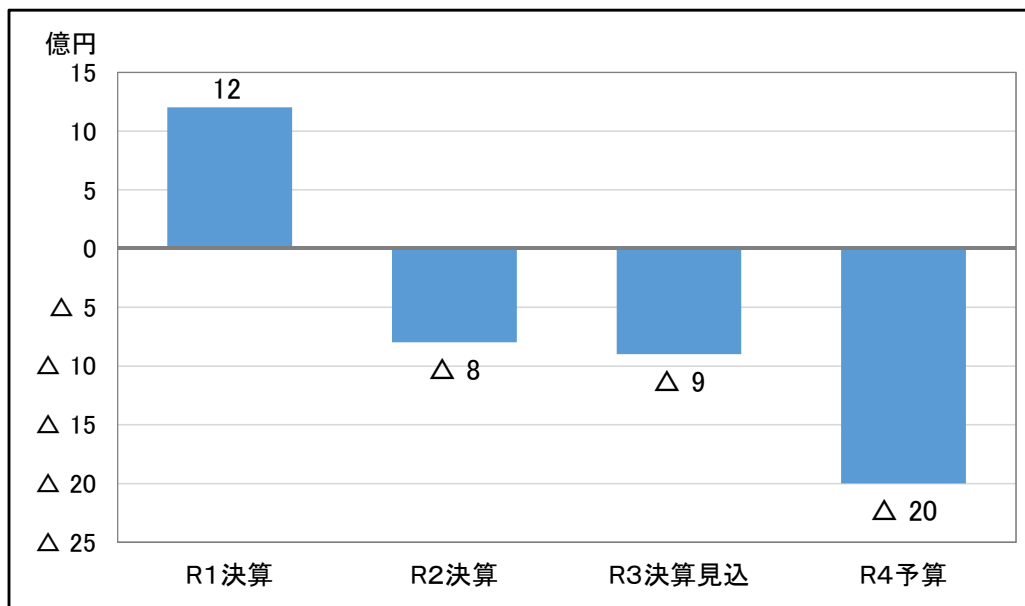
※改札機通過データ

○直近の令和4年6月の利用人員は、コロナ前の令和元年6月比で、市バス△15.6%、地下鉄△14.8%と減少し、うち敬老は、市バス△31.6%、地下鉄△29.2%と大きく下回っている。

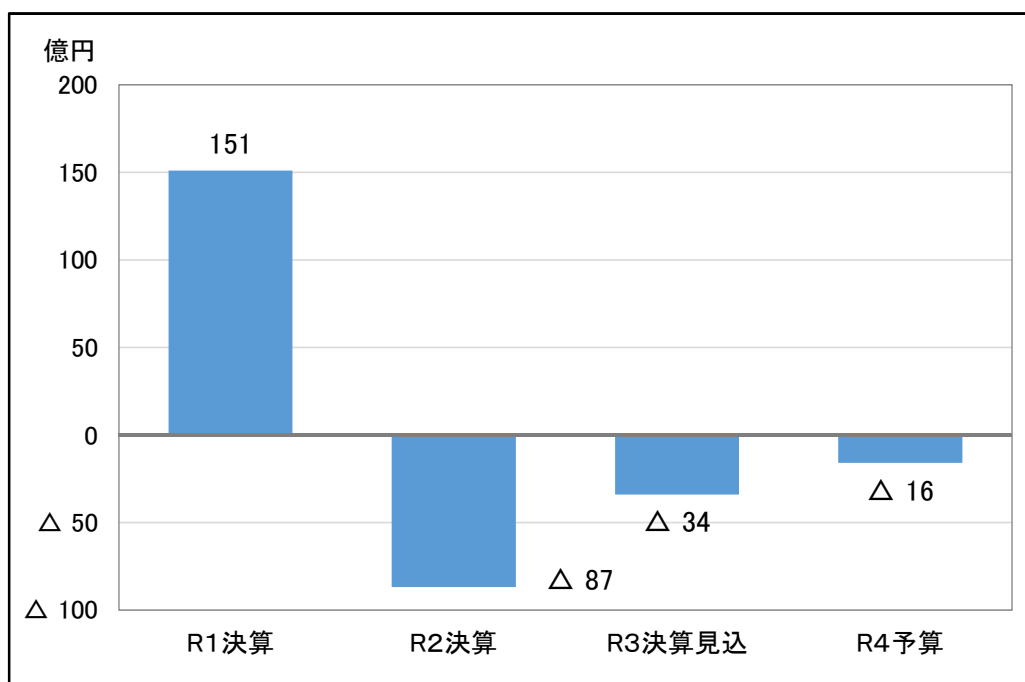
2 収支の状況

(1) 経常収支

市バス



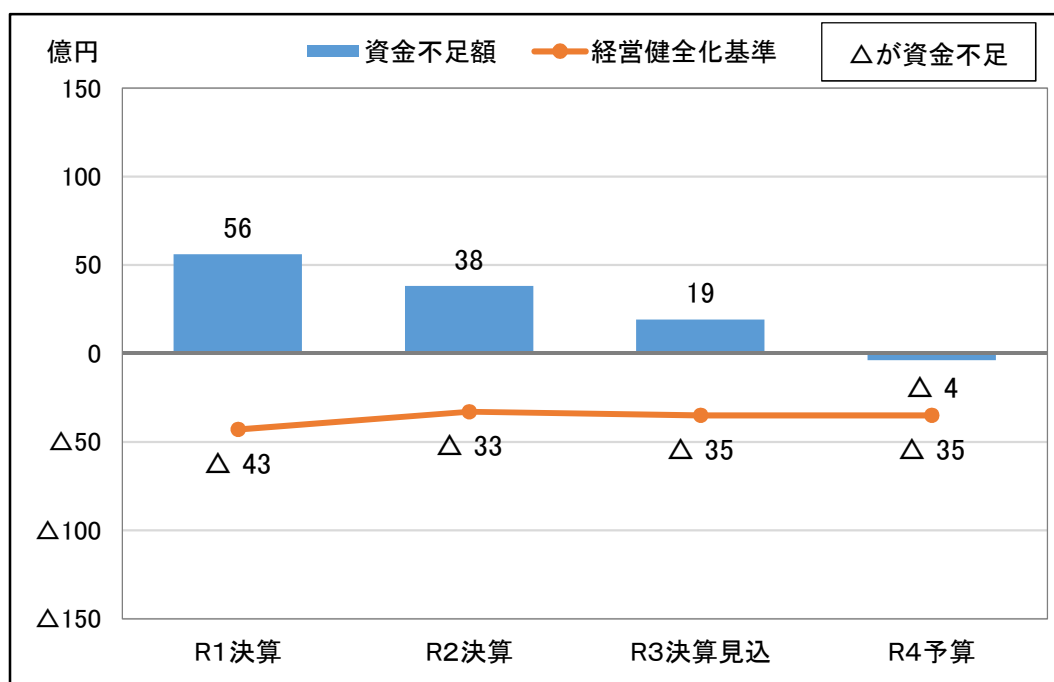
地下鉄



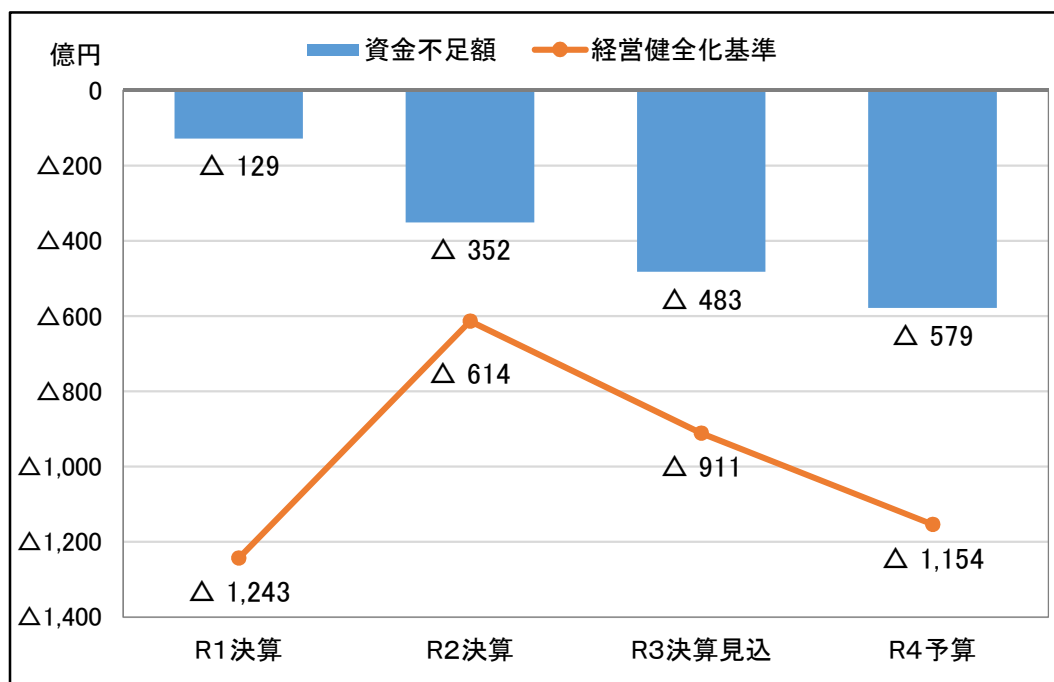
○経常収支は、市バス・地下鉄両事業とも、令和2年度以降3年連続の赤字となる見込み。

(2) 資金不足

市バス



地下鉄



○資金状況は、市バス・地下鉄両事業とも、経営健全化基準（※）に達していないものの、毎年度悪化している。

（※）資金不足比率（資金不足額／営業収益）が20％になる資金不足額

3 経営の改善

(1) 取組状況

<令和3年度>

項 目	内 容
他都市の経営実態調査 (令和3年度実施)	局内事業推進ワーキンググループにおいて、他都市の経営実態に関する調査・比較・分析を実施

<令和4年度>

項 目	内 容
組織体制の強化 (令和4年4月)	経営改善に専任で取り組む参事と主幹を新設するとともに、関係部署の所管課長および係長からなる兼務主幹、兼務主査も合わせて設置
高齢者割引全線定期券（特得60バス定期）の見直し (令和4年4月制度変更)	「時間帯制限なし」から、「平日は昼間時間帯（10～16時）専用」に変更
市バス路線の再編成 (令和4年4月)	運行経路・本数の見直しを実施 ・名鉄・JR東海の駅に接続する路線の新設・拡充 ・道路開通区間への路線の新設 ・長大路線や鉄道並行路線の見直し
地下鉄東山線のダイヤ改正 (令和4年9月予定)	運行本数の見直しを実施予定 ・平日朝のラッシュ時間帯の運行間隔は現行並みを維持しつつ、その他の時間帯の運行間隔を変更 { 平日昼間 5分→6分、 平日深夜（23時台） 8分→10分、 土休日昼間 4～5分→5分 ・見直しにより1日の運行本数は平日で50本、土休日は46本減少

(2) 今後の取組

局内事業推進ワーキンググループの調査等を参考に、経営改善策を検討し、令和5年度予算や次期経営計画への反映を目指す。

項 目	内 容
業務量見直し	バス（路線・運行本数）、地下鉄（運行本数）
収入増加策	利用促進、料金制度、附帯事業収入
支出削減策	人件費、経費、投資計画